



Vol. 02

小川卓 氏
医療法人財団献心会川越胃腸病院医療サービス対応局長兼総務部長、
医療経営士2級

実践研究講座

講師インタビュー

新しい時代に入る今 高い次元の医療経営士として 一緒に成長していきたい

医療経営士試験の合格者が1万5000人を超え、医療経営士は「量の拡大」から「質の向上」のフェーズへの移行が求められている。そうしたなかで株式会社日本医療企画ヘルスケア経営学院では6月から、医療経営士の専門性を高めるための継続学習の場として、一般社団法人日本医療経営実践協会認定の「医療経営士実践研究講座」をスタートする。本コーナーでは、講座スタートを記念して講師を務める医療経営士にインタビューを行う。第2回は、「他職種からの病院事務長養成講座～セカンドキャリアとして医療機関で働く人のためのグループワーク」を担当する医療法人財団献心会川越胃腸病院医療サービス対応局長兼総務部長の小川卓さんに登場いただく。

心を高く掲げ続けるために 継続学習が大切

6月からヘルスケア経営学院「医療経営士実践研究講座」がスタートします。

1991年に銀行員から病院事務職に転職した当初、目の前の課題解決に追われながら勉強してきました。インターネット検索がでない時代の情報収集は医療専門誌のバックナンバーやペラランスターのメモ記録に頼ったもの。体系的学習には程遠く、「泥縄的学習」という状態でした。2010年春、初めて医療経営士テキストを手にしたときの重さと驚きを今も覚えています。「最初からこれを学べる事務長はうらやましい」と、妬ましく思いました(笑)。

昨年、ヘルスケア経営学院「実践研究講座」の企画を聞ききました。私自身は数年前、中村彰吾先生の中村塾に参加したいと思いついて、日々の業務に忙殺され、断念した経緯があります。今思えば無理してでも参加すべきだったと後悔しています。インターネット教材などで学べる現代だからこそ、対面で学び合う場が与えられたこ

とはチャンスだと思っています。継続学習は「現実に流されないための錨」のようなものです。

医療経営士は、医療機関をマネジメントするうえで必要な知識と課題解決能力を有し、実践的な経営能力を備えた人材を目指していますが、現実の壁は高く、日々の泥臭い業務と理想とする仕事にはかい離があります。医療経営士として憂うべきは、国民に安心安全で高度良質な医療をいかに提供するかということ。しかし同時に、経営を安定させ、スタッフの離職を食い止め、待合室で怒鳴る患者さんをなだめつつ、駐車場の混雑状態まで気を配らねばなりません。「高く心を悟りて俗に帰るべし」という松尾芭蕉の言葉があるのですが、医療経営士としての心を高く掲げ続けるためにも継続学習が大切なのだと思います。

医療経営士としての 意志と覚悟が大切

小川先生は同講座で「他職種からの病院事務長養成講座」セカンドキャリアとして医療機関で働く人のためのグループワーク」を担当されます。講座の内容や重点

的に学ぶ分野を教えてください。
「知・情・意」の3つに分けると、「知(知性)」の部分は、医療経営士テキストがベースとなります。他職種から病院事務職への転職を想定し、体系的に全体像を知っておくことが大切だと思います。「情(感情)」に関しては、グループワークを中心とします。私は病院に勤め始めてすぐに地元の事務長会に参加させてもらいましたが、隣に座った事務長から、医師や看護師への不満や悪口を山のようには聞かされました。医療機関で働けば理不尽なこと、悔しい体験

もありましたが、感情に任せて陰で発散するだけでは、寂しい未来しかないように思います。講座は1日しかありませんから、限られた時間で最大限、密度濃く進んでいきたいと準備しています。講座名のとおり、医療機関への転職を考えている方、転職はしたものの「あれ？」と困っている方など、28年前の私のような人を受講いただければと思います。過去のノウハウは陳腐化するので昔話は極力控えますが、医療経営に携わってきたなかで停滞を余儀なくされた「ぬかるみ」を少しでも

もショートカットできるヒントにしていただけだと思います。

最後に医療経営士を目指す人材にメッセージをお願いします。えらそうなことを言わせていただければ、「知・情・意」の3つ目の「意(意志)」、すなわち「医療経営士としての意志と覚悟」が大切だと思います。

たとえば、未収金管理の責任者となつて、経済的にも健康にも恵まれない方を前にしたとき、どんなスタンスで接することができるのか。感情移入していたら身が持たないのは事実です。しかし、全く心を動かさないようになると、チームを組む医療スタッフとの心の通じ合いもできなくなります。

医療の世界をことさら神聖視することには賛成できませんが、「ひとの命」に携わっているという謙虚さが大切だと思います。医療経営士として客観的情報から物事の本質を捉えたいうえで、自分がどのように病院の一部として機能すればよいかを考える俯瞰と主観のバランス。私も悩んでばかりですが、平成から新しい時代に入る今、高い次元の医療経営士として一緒に成長できればと願っています。



おがわ・たく ●立教大学経済学部卒業、日本大学大学院前期修了(人間科学修士)、東京大学公共政策大学院H-PAC5期修了。埼玉銀行(現・埼玉りそな銀行)を経て、1991年、医療法人財団献心会川越胃腸病院に入職、現在に至る。医療経営士2級

本物の実践力を身に付け、病院経営を支える人財を育てる

2019年6月開講 医療経営士実践研究講座

実践力が身に付く3つのポイント!

- ★医療経営の現場を熟知した医療経営士から学べる!
- ★短期間で実務能力をあげるカリキュラム!
- ★双方向型の効果的な授業スタイル!

※2019年4月より順次募集受付(予定)

小川卓 先生の担当講座はコレ

医療経営実践研究講座[総合経営コース]
「他職種からの病院事務長養成講座
～セカンドキャリアとして医療機関で働く人のためのグループワーク」
お問い合わせ：ヘルスケア経営学院事務局(TEL：03-3258-2798)